

令和2年度 能美市立辰口中学校 学校評価 中間評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価
1	組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	主任層を生かし、活躍してもらうことで、校務分掌ならびに学年集団の統一が図られている。また、若手教員にも活躍の場を持たせることで、教員としての技能を高め、組織として協働する意識も高まってきている。主任を中心とした若手教員の育成を図ることで、組織としての力を高めていく。	A
		②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し業務の改善・効率化を図る。	＜努力指標＞ 見直しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見直しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	課題意識を持ち、よりよい学校づくりに参画している教員は多くみられる。しかし、月2回の定時退校ができていない教員が複数おり、自身の働き方を見直し、業務の改善が図られていないと認識している教員も多くみられる。原則、日曜日と水曜日を部活動の休養日とし、時間外勤務時間の削減および定時退校の実施に努める。	B
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	教育相談の会を毎週設定し、情報共有を行いながら、組織的に対応に努めている。特に、休校明けに起こると予測される問題に対して、早期対応を意識して取り組むことができた。しかしながら、不登校傾向の生徒の数が減少傾向にならない現状がある。	A
2	確かな学力の育成(知)	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させて、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、授業改善を図る。	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5＞ ＜生徒アンケート19＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的にやっているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	まとめや振り返りを重視した授業は実践することができている。2学期からはじまる課題研究の授業においても教科との往還や主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、具体的な取り組みを充実させる。	B
		②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずほめ、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート6＞ ＜生徒アンケート17＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	「授業の辰人スタイル」は身につけており、授業に向かう姿勢はよくなってきた。生徒がわかる・できると実感できるような授業改善を本時レベルでも単元レベルでも、さらに進めていく必要がある。	B
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップ(※)を活用し、様々な面から思考力・判断力・表現力の向上に努めている。	＜教職員アンケート7＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	学力向上プランの一環として、学力調査問題を活用した授業改善に取り組んでいく。授業の中で重点的に取り組んだ内容を定期テストで評価する。生徒に付けた力を教科担当者間で共有したり、数値目標を設定したりすることで、取り組みが具体的に成果が検証可能となるよう配慮する。	B
3	豊かな心の育成(徳)	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	＜満足度指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート9＞ ＜生徒アンケート28＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	今年度はHyperQ-Uアンケートに変更した。生徒理解面談と合わせて、生徒理解を深めていくことに活用した。今後は、日常生活での関わりや行事等を通じて、生徒個人への理解をさらに深めながら、親和的な学級づくりに引き続き取り組んでいく。	A
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート25＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	例年のように、全校規模でのボランティア活動に取り組むことができなかった。規模を縮小しながらも、感染症対策を万全にして、生徒が主体となって自己有用感を育むことのできる取り組みを計画し、実践していく。	C
4	健やかな心身の育成(体)	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	教育相談の会を定期的に設定し、教員間では情報交換を密にして生徒に対応することができている。しかし、不登校傾向が改善しない生徒が多い。外部機関とも連携しながら、さらに多くの目で見えていくことで多面的・多角的な視点で生徒理解を深めていく。	B
		②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	今年度より、時間の3点確保をさらに意識することができるよう、アカンサノートを改良した。休校が長期化した影響で在宅時間が長くなり、時間の使い方に関心を持っていた生徒が少なくない。2学期以降、研究部とタイアップして、まずは現状把握を目的としたアンケートを実施する。3学期には、結果をもとに自分の時間の使い方を見つめ直す機会を設定する。	C
		③体育的活動・部活動を中心に体力を高めるとともに、ねばり強い精神力及び親和的な人間関係を育む。	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、体力を向上させ親和的な人間関係を育み、粘り強く努力する心づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ 生徒が粘り強く努力する姿は向上しているか。	いろいろな制限があり、目標が持たにくい中であったが、体力づくりや人間関係づくりに粘り強く取り組むことができた。体力を高めるとともに、感染症から自他ともを守る意識をさらに高めていくことができるようにしたい。	A
5	家庭や地域との連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート12＞ キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	地域の方々のご協力をいただき、職場体験に代わる取り組みとして2年生で職業講話を実施した。生徒のキャリア発達を促すよい機会となった。2学期は課題研究での外部とのつながりが考えられるが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Zoom等のICTを効果的に活用していくことも視野に入れている。	B
		②学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	感染症拡大防止の対策として学校行事が大きく変更されることとなった。行事の中止、参観者の制限などで家庭との連携の部分で学校の様子を知る機会が少なかった。機会をみて学校ホームページを通して学校の様子を伝えていく。 学校運営協議会でいただいたご意見をもち、地域との連携をさらに強化していく。	B